

施策評価シート (平成26年度の振り返り、総括)

作成日 平成27年 07月 14日

施策 No.	19	施策名	高齢者の自立と社会参加の支援
主管課名	社会福祉課	電話番号	0285-83-8195
関係課名	国保年金課、健康増進課、介護保険課、生涯学習課、自然教育センター (社会福祉協議会)		

施策の対象	65歳以上の市民								
対象指標名	単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績	26年度見込
高齢者人口(65歳以上)	人	15,749	16,059	16,160	16,498	17,158	17,582	18,335	18,500

施策の意図	高齢者に ・健康で生きがいを持って生活してもらう ・積極的に社会参加してもらう ・自立した生活をしてもらう								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	・ねたきり高齢者は、介護4・5認定者とする。 ・社会参加している高齢者数は、老人クラブ、老人趣味クラブ、シルバー人材センターの会員数、地域福祉づくり推進事業(ミニデイホーム事業等)の参加者、65歳以上の民生委員とする。								
成果指標名	単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績	26年度基本計画目標値
ねたきり高齢者数	人	680	775	785	752	753	758	802	862
高齢者人口に占める割合	%	4.3	4.8	4.9	4.6	4.4	4.2	4.3	4.7
社会参加している高齢者数	人	4,948	4,540	5,797	5,952	6,255	7,016	7,241	5,800
高齢者人口に占める割合	%	31.4	28.3	35.8	35.6	36.5	39.9	38.8	31.4

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	・高齢者には、生きがいを持って積極的に社会参加してもらう。 ・行政は、自立した生活が送れるよう、生きがいづくりや社会参加をしてもらうための情報提供や支援を行う。
-------------------------	---

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

(1) 施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

・社会参加している高齢者数は、毎年増加している。
平成24年度：6,255人、25年度：7,016人、26年度：7,241人

・高齢化率は、団塊の世代が65歳以上となり、伸び率は大きくなっている。
（10月1日現在の人口統計）
平成24年：20.7%（前年比+0.7）、25年：21.7%（前年比+1.0）、
26年：22.7%（前年比+1.0）

・高齢者のみ世帯は、子ども世代の独立、団塊の世代の高齢化などで増加している。
平成24年度：高齢者のみ2,532世帯（内一人暮らし1,242世帯）、25年度：高齢者のみ
2,876世帯（同1,373世帯）、26年度：高齢者のみ2,974世帯（同1,432世帯）

・健康増進施設真岡井頭温泉の利用助成を行い、健康増進と利用促進を図っている。
利用枚数 平成24年度：46,918枚、25年度：48,717枚、26年度：51,691枚

・自動車を所有していない高齢者のみの世帯に福祉タクシー券を交付し、交通の便を確保して福祉の増進を図っている。
利用枚数 平成24年度：23,850枚、25年度：22,889枚、26年度：25,093枚

・老人憩の家、老人研修センターは、老人クラブ単位で利用している。
老人憩の家 平成24年度：114日・延べ2,730人、25年度：114日・延べ2,120人、
26年度：120日・延べ2,439人
老人研修センター 平成24年度：104日・延べ2,477人、25年度：105日・延べ2,435
人、26年度：105日・延べ2,219人

・老人クラブ数と会員数は減少傾向にあるが、その要因は、組織が高齢化して世代間の隔たりが生じていること、地域のつながりが希薄化したことなどが考えられる。
平成24年度：92クラブ・会員数3,112人、25年度：89クラブ・会員数2,893人、
26年度：84クラブ・会員数2,759人

・シルバー人材センター会員数はやや減少傾向にあるが、その要因は、定年後の再雇用、高齢化による退会などが挙げられる。
平成24年度：登録会員数474人・受注額2億2,738万円、25年度：登録会員数476人・
受注額2億1,542万円、26年度：登録会員数447人・受注額2億57万円

(2) 近隣他市との比較

・本市独自の「みんなでつくる地域づくり事業」の中で、地域福祉づくり推進事業を実施し、高齢者の社会参加や健康増進を支援している。

・高齢化率（10月1日現在の人口統計）
平成24年：20.7%（県23.0%）、25年：21.7%（県23.9%）、
26年：22.7%（県25.1%）
14市では、下野市、小山市、宇都宮市に次いで4番目に低い。

・老人クラブ加入率（60歳以上人口に対する会員数の割合）
平成24年度：13.3%（14市中5位）、25年度：12.0%（同6位）、
26年度：11.2%（同6位）

・シルバー人材センター加入率（60歳以上人口に対する会員数の割合）
平成24年度：2.0%（14市中4位）、25年度：2.0%（同4位）、
26年度：1.8%（同5位）

・平成26年12月に日本経済新聞社産業地域研究所が実施した「全国市区『介護・高齢化対応度』調査」では、「医療・介護」、「生活支援・予防」、「社会参加」、「認知症対策」、「その他」をあわせた総合順位で、県内6位であった。（全国767市区中256位：回答率94.3%）

(3) 住民期待水準との比較

補足事項欄を参照

26年度の
評価結果

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

- ・老人クラブ、老人趣味クラブ、シルバー人材センターへの加入促進を図った。
- ・健康増進施設真岡井頭温泉の利用助成を行い、健康増進と利用促進を図った。
- ・自動車を所有していない高齢者のみの世帯に福祉タクシー券を交付し、交通の便を確保して福祉の増進を図った。
- ・老人憩の家、老人研修センターの利用促進を図るとともに、老人研修センターでは、児童生徒と高齢者との交流活動を行った。
- ・自治会単位で、地域福祉づくり推進事業を実施し、高齢者の社会参加や健康増進を支援した（平成26年度：敬老会事業134全区、ミニデイホーム事業45区、井頭温泉招待事業59区、介護予防体操事業43区、高齢者等見守りネットワーク事業13区）
- ・介護予防のため、ノンケア体操など介護予防体操の普及、指導者の養成を図った。
- ・高齢者向け各種教室を実施した。
（平成26年度）シニア安心セミナー（相続・遺言、成年後見人制度）、お口うるおいアップ教室（口腔機能向上教室）、認知症講演会など
- ・平成27年1月に地域共助活動推進事業を開始し、高齢者の見守り活動等の支援と高齢者自身の地域活動への参加促進を図った。
- ・平成27年2月にシルバーサロン「コットン・カフェin大谷台町」を開設し、高齢者の外出促進と生きがいづくりを図った。
- ・高齢者世帯の安心を確保するため、急病や災害等の緊急時に、ボタン1つで迅速に通報できる緊急通報装置を設置した。また、平成26年度に人感センサー、火災センサー等を備えた新システムを導入し、24時間の見守りを可能にした。

26年度の
評価結果

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

- ・団塊の世代が65歳となり、高齢者が急増しているため、高齢者の自主的な社会活動を支援していく。
- ・老人クラブ、老人趣味クラブの活動内容を市広報紙等で紹介するなど、加入促進を図る。
- ・地域福祉づくり推進事業の中で、介護予防体操事業の実施を促し、要介護状態にならないための健康づくりを推進する。また、高齢者等見守りネットワーク事業と地域共助活動推進事業の普及を図り、地域での見守り活動を推進する。
- ・生きがい活動支援通所事業（デイサービス事業）や地域包括支援センターの介護予防事業（運動機能向上、口腔機能向上等）を活用し、生活機能の向上や認知症の予防を図る。また、引きこもり高齢者の社会参加を支援するため、シルバーサロンの利用を促進し、高齢者の居場所づくりを図る。
- ・高齢者世帯の安心を確保するとともに、24時間の見守りを行うため、新システムによる緊急通報装置の設置（旧システムからの切り替えを含む）を進める。併せて、ケーブルテレビも視聴できるようにし、非常時の情報確保を可能にする。
- ・医療、介護、保健、福祉、地域等と連携して、地域包括ケアシステムの構築推進を図っていく。

26年度の
評価結果

補足事項

【(3)住民期待水準との比較】

・平成27年度真岡市民意向調査では、「真岡市の理想の将来像」として、「高齢者や障がい者に思いやりのあるまち」が33.8%（前年度34.2%）で11項目中2位（同1位）、また、「今後、力を入れてほしい施策」では、「高齢者福祉の推進」が46.0%で29項目中1位（同1位）であるが、急速な少子高齢社会の進行により、市民の期待水準は高い傾向にあると思料される。

【高齢化の状況】

・国の状況（平成27年版高齢社会白書：内閣府発表より）

平成26年10月現在、65歳以上の高齢者人口は3,300万人（高齢化率26.0%）で、団塊の世代（昭和22～24年に生まれた人）が65歳以上となる平成27年には3,395万人となり、平成54年に3,878万人でピークを迎え、その後は減少に転じると推計している。

高齢化率は、団塊の世代が75歳以上となる平成37年に30%を超え（30.3%）、平成72年には39.9%に達すると推計している。

・真岡市の状況（第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画より）

平成26年10月現在、高齢者人口は18,293人（高齢化率22.5%）で、県内14市では低いほうから4番目である。

高齢者人口は、平成29年に20,106人（25.0%）、平成32年に21,504人（26.8%）、平成37年に22,439人（28.1%）になると推計している。